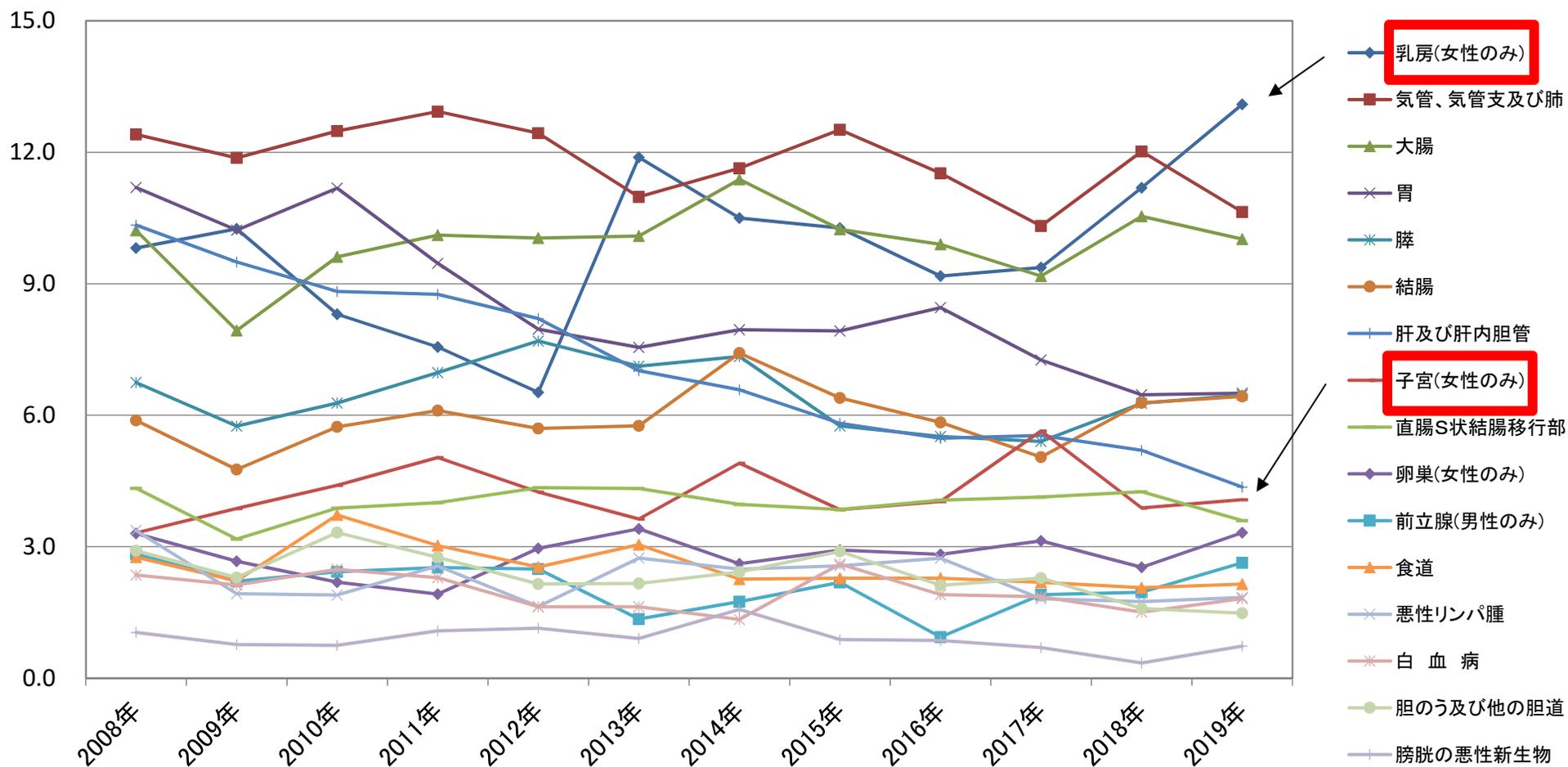


各がんの登録状況からみた 評価のまとめ

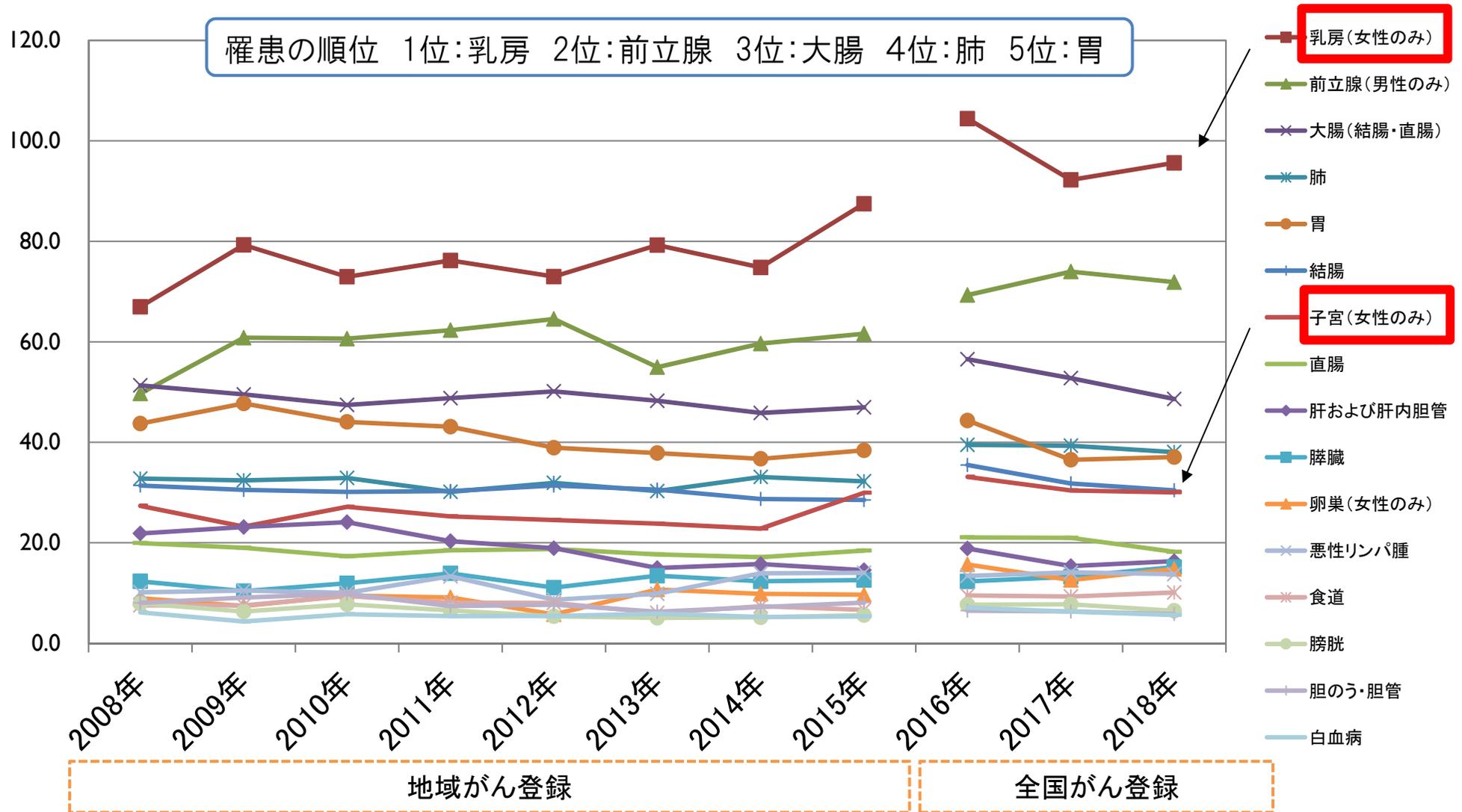
部位別75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）



出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

部位別75歳未満年齢調整死亡率は、比較している部位の中で乳がんが最も高く、増加傾向にある。子宮がんは比較している部位では中間の順位にあり、長期的に横ばいの推移である。

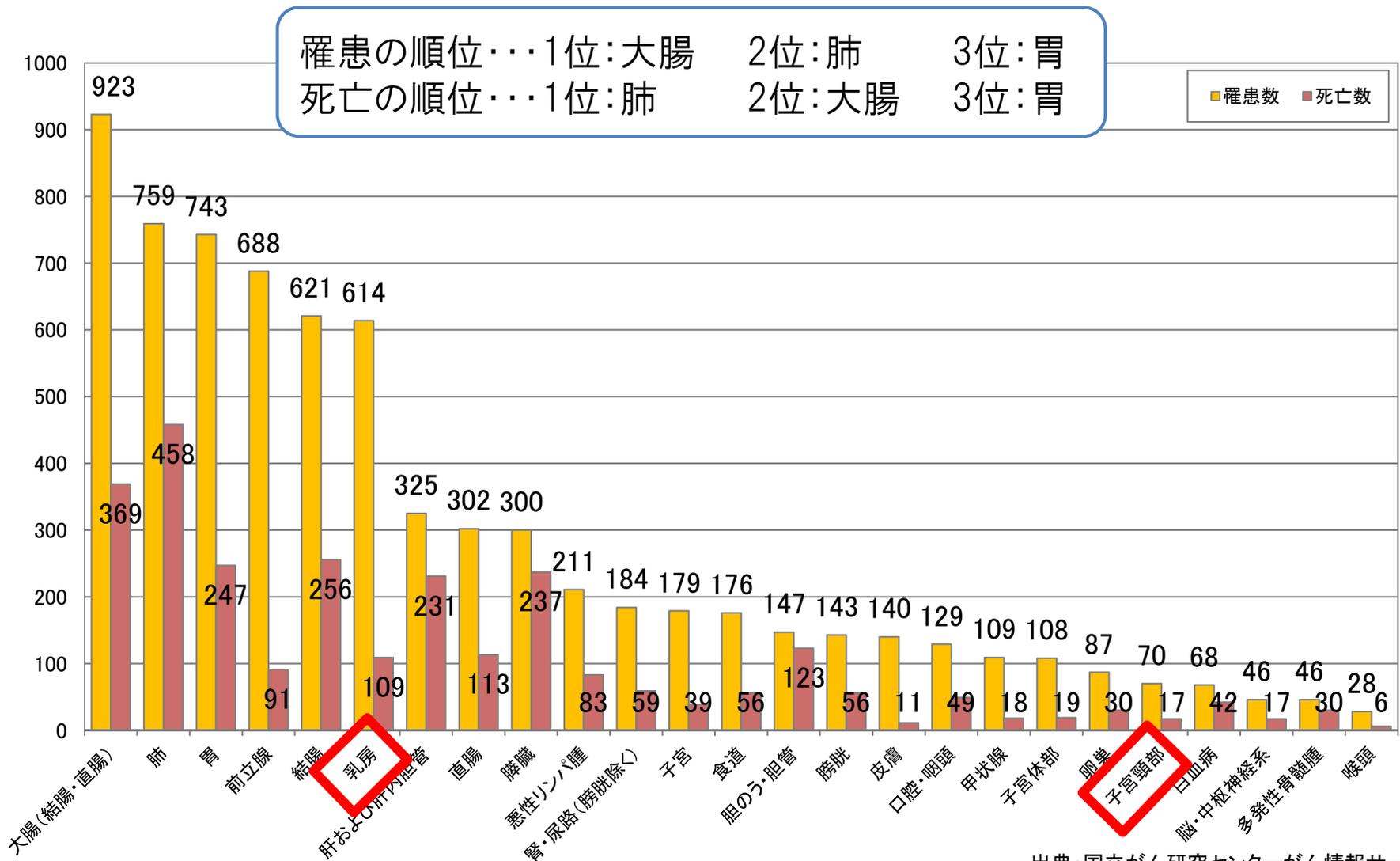
部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス

部位別年齢調整罹患率は、比較している部位の中で乳がんが最も高い。子宮がんは比較している部位では中間の順位にあり、長期的に横ばいの推移である。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2018年)



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス

がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、胃がんが続いている。がんにより亡くなった人の数(死亡数)については、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順になっている。乳がん及び子宮頸がんは、罹患数に対して死亡数が少ない傾向にある。

乳がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、2017年以降増加しており、全国を2.5ポイント上回る。
2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
3. 発見経緯は、検診等が35.8%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も48.4%ある。
4. 発見経緯別の進行度(2016~2018)は、自覚症状等で発見されたうち限局が51.2%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。

子宮頸がん

1. 子宮がん75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的に横ばいで推移している。
2. 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨を強化する必要がある。
3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016~2018)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。
4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。

乳がん

1. 75歳未満年齢調整死亡率は、2017年以降増加しており、全国を2.5ポイント上回る。
(参考資料4スライド26)

乳がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

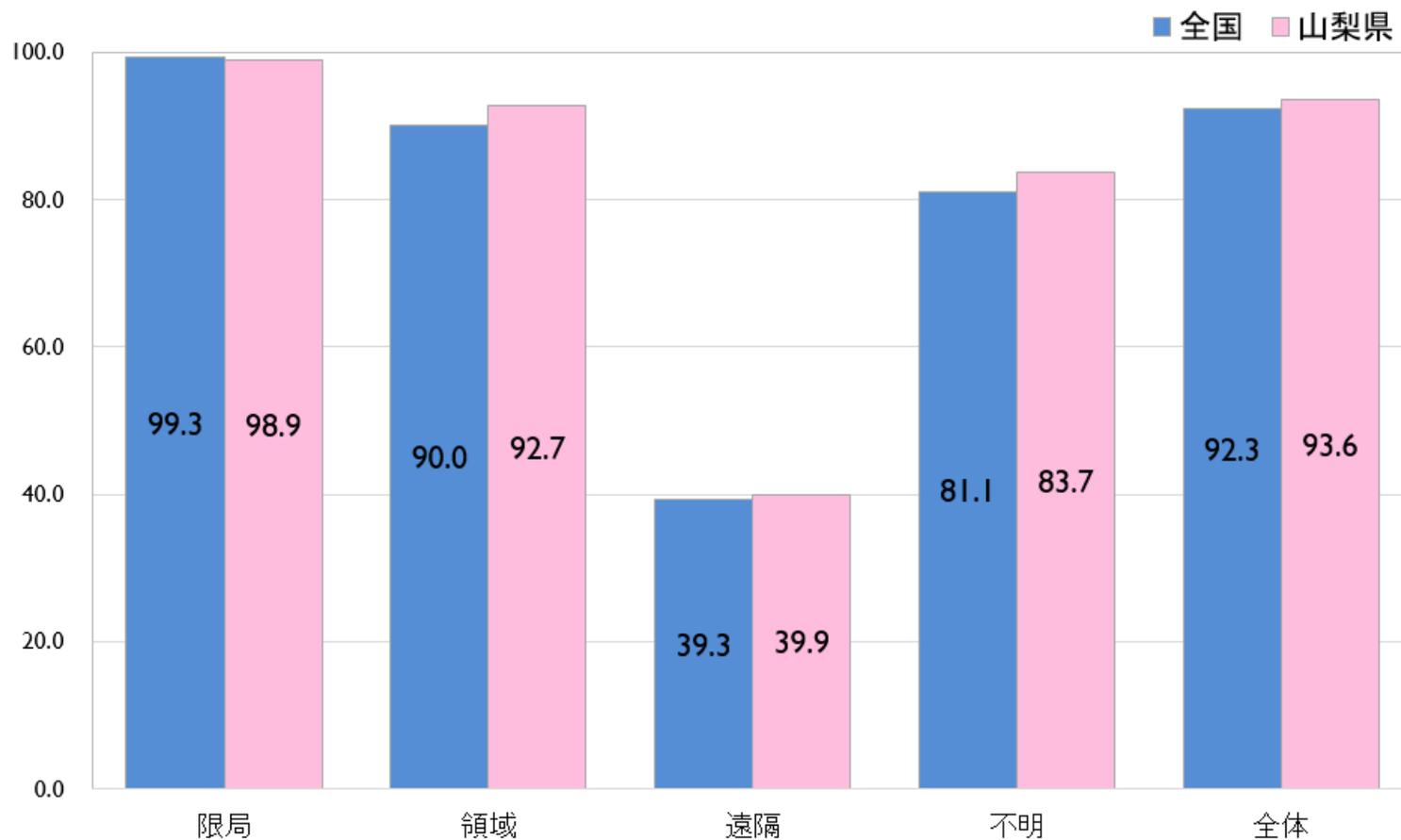


乳がん

2. 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
(参考資料4スライド33)

乳がん進行度別5年相対生存率(2009~2011年)

出典：2009~2011年生存率報告(MCIJ-S)

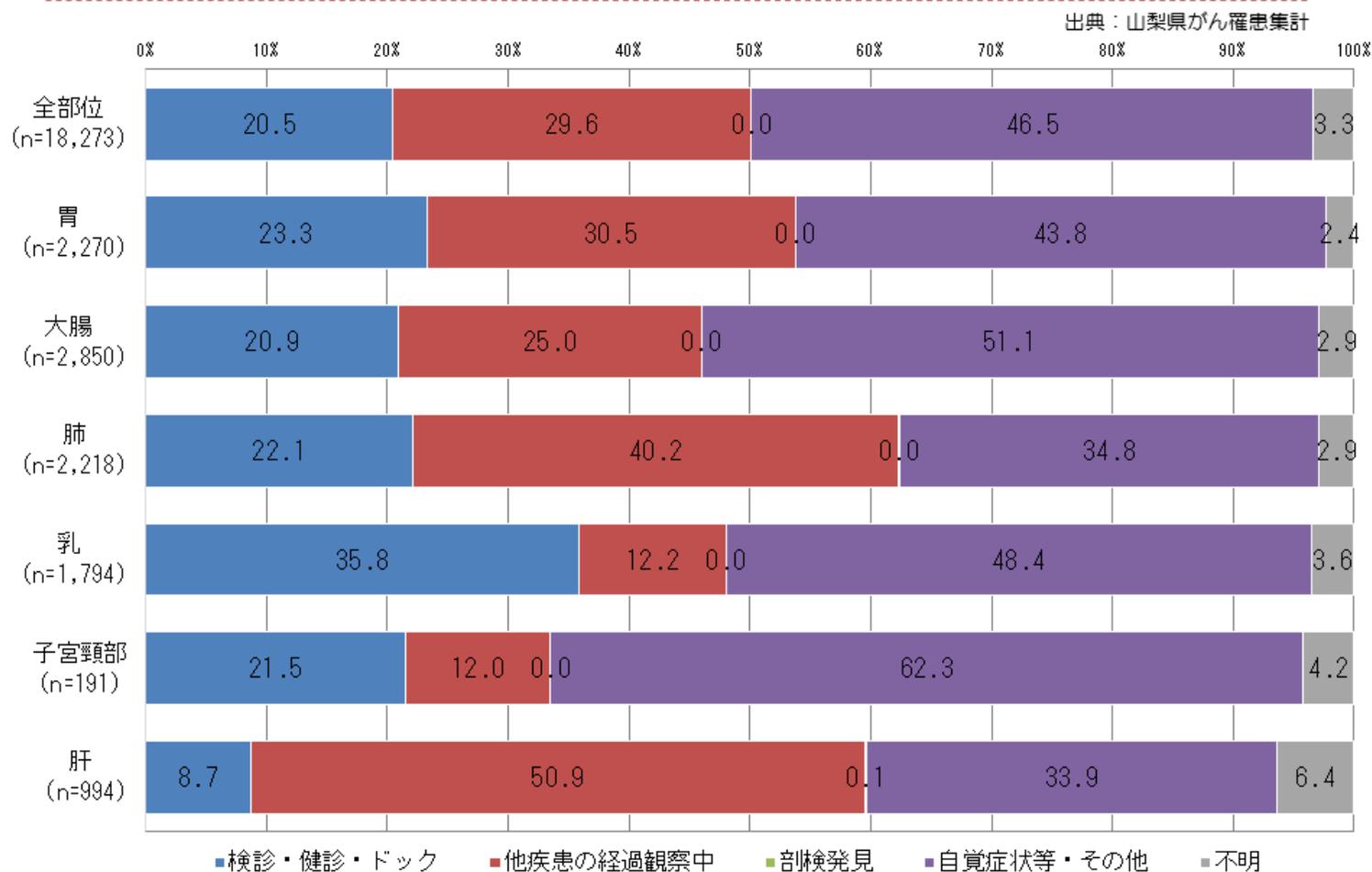


領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

乳がん

3. 発見経緯(2016~2018)は、検診等が35.8%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も48.4%ある。
(参考資料4スライド17)

部位別の発見経緯 (2016~2018年)

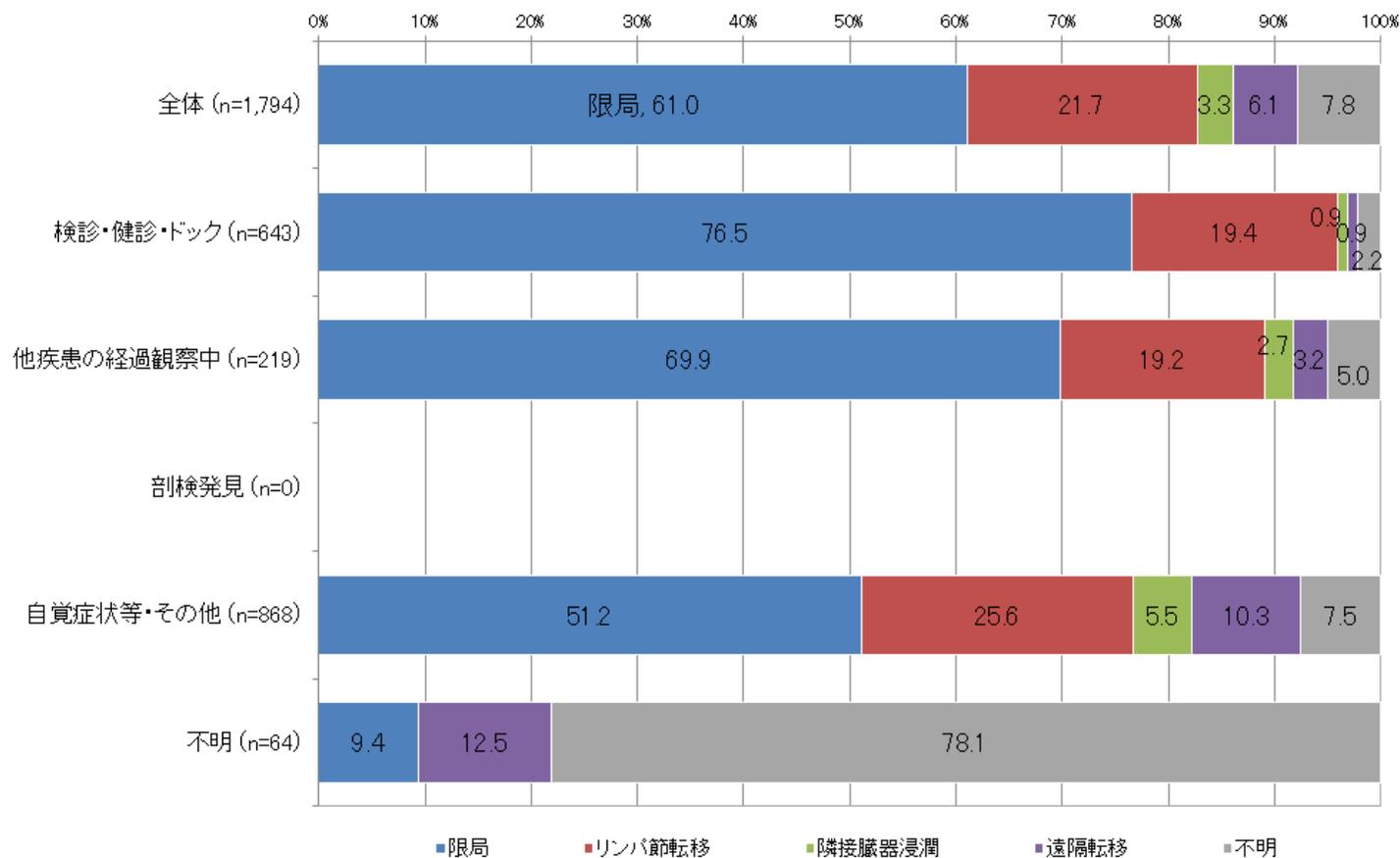


乳がん

4. 発見経緯別の進行度(2016~2018)は、自覚症状等で発見されたうち限局が51.2%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。

(参考資料4スライド32)

乳がん発見経緯別の進行度(2016~2018年)

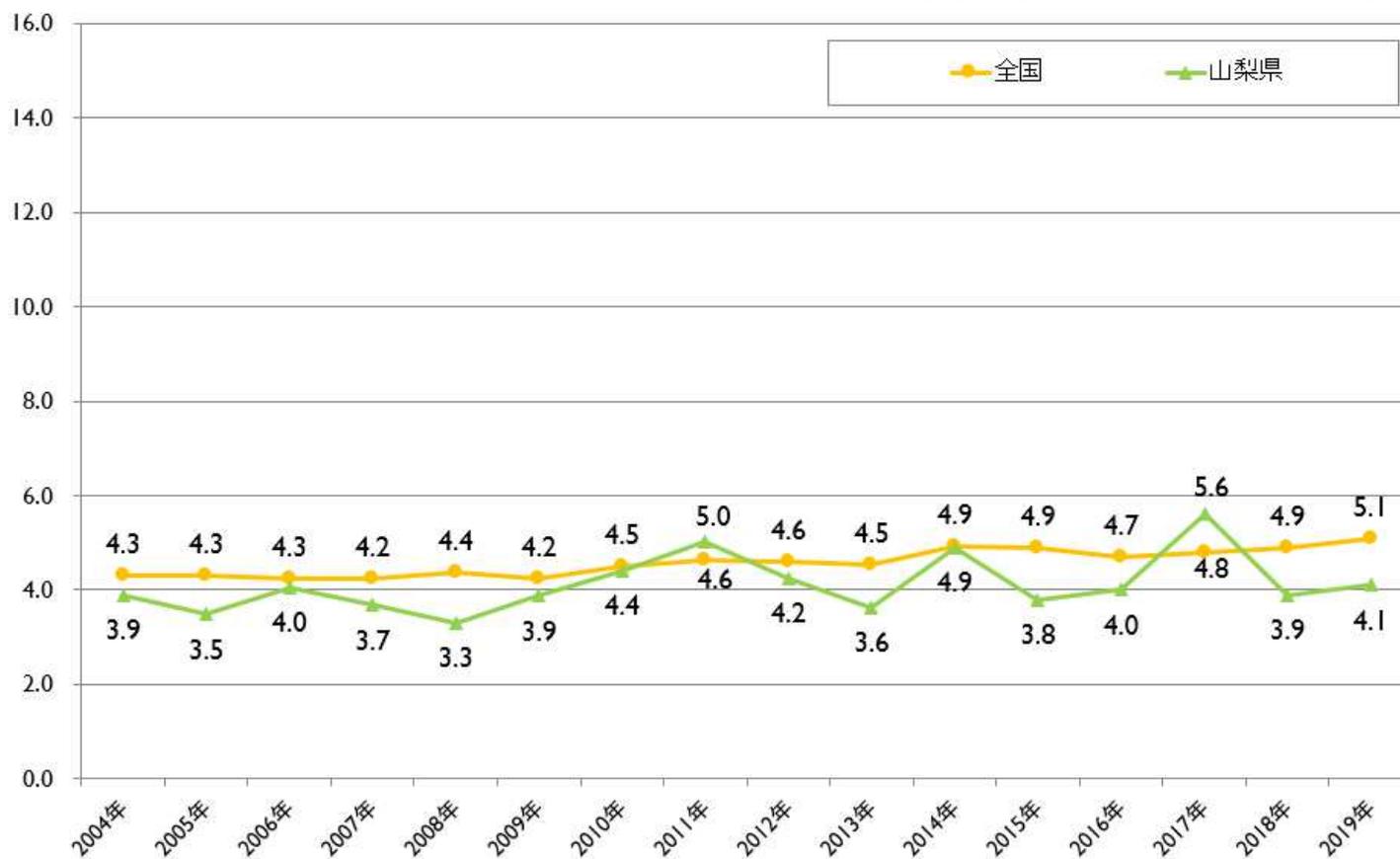


子宮頸がん

1. 子宮がん75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的に横ばいで推移している。
(参考資料4スライド36)

子宮がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

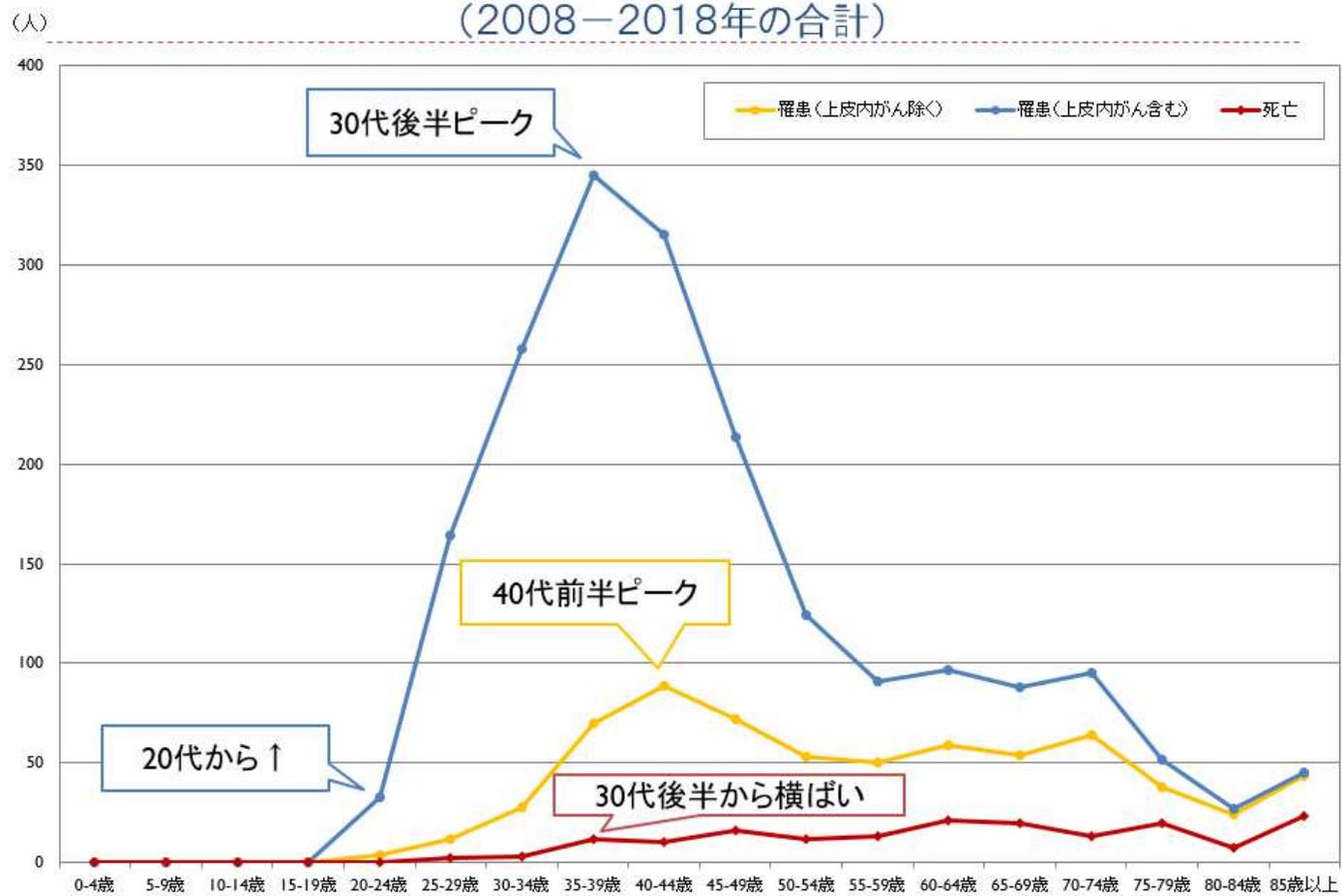


子宮頸がん

- 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨を強化する必要がある。

(参考資料4スライド38)

子宮頸がん年齢階級別罹患数と死亡数の比較 (2008-2018年の合計)



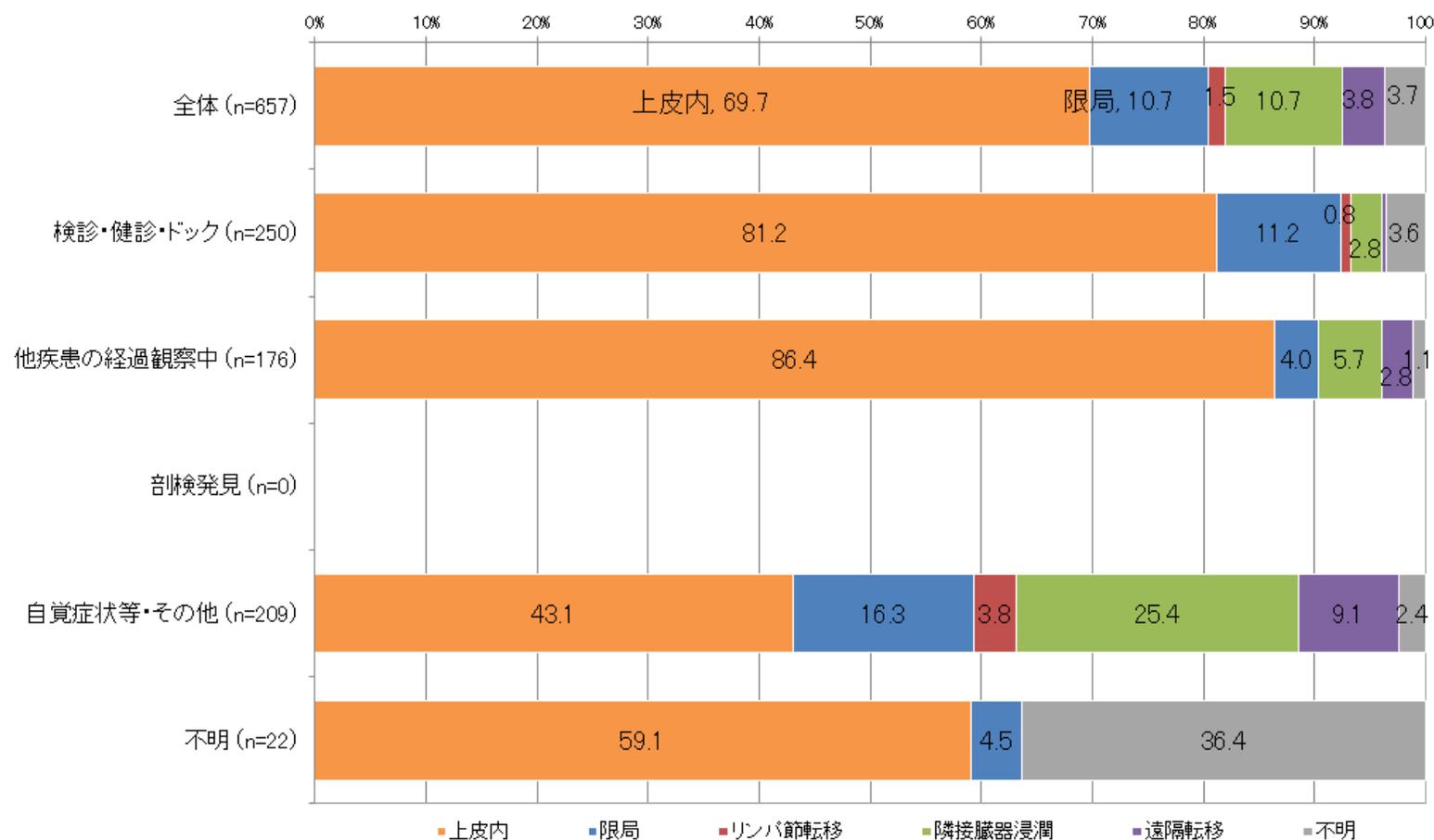
出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

子宮頸がん

3. 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度(2016~2018)は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。

(参考資料4スライド47)

子宮頸がん(上皮内がん含む)発見経緯別の進行度(2016~2018年)



子宮頸がん

4. 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。
(参考資料4スライド49)

子宮頸がん進行度別5年相対生存率 (2009~2011年)

出典：2009~2011年生存率報告 (MCIJ-S)

